

高等部総合的な学習の時間の取り組み①

—— 学校オリジナルキャラクターの作成と活用 ——

廣木 聡*・渡邊 鮎美*・椎名 幸由紀*・東條 吉邦**

(2014年9月16日受理)

Integrated Study in a Special High School for Students with Intellectual Disabilities,
Part 1: Developing and Taking Advantage of the School's Original Character

Satoshi HIROKI, Ayumi WATANABE, Sayuki SHIINA and Yoshikuni TOJO

キーワード：特別支援学校高等部，総合的な学習の時間，キャラクター作成，キャラクター活用

「問題の解決や探求活動に主体的，創造的，協同的に取り組む態度を育てる」という特別支援学校高等部の総合的な学習の時間の目標¹⁾²⁾³⁾⁴⁾に沿って，自分の学校や地域について知る学習を進める中で，生徒から自然発生的に「本校のオリジナルキャラクターを作りたい。」という声があがった。生徒が主体的に「キャラクターの公募，候補作品の作成，投開票，決定」の活動を行った。まず広報をして，学校の特徴を表現したキャラクターを公募した。それぞれの生徒のイメージがふくらみオリジナルキャラクターが具体化していった。集まったキャラクターを一覧にして「ゆるキャラグランプリ」と題した全校投票を行い，オリジナルキャラクターを決定した。自分たちのキャラクターの製品を作りたいという希望が出て，作業学習製品としてキャラクターグッズを作製したり，卒業記念品としてキャラクターが縫いつけられた電子黒板カバーを作製したりした。また学校運営でも，校内外の広報活動に積極的にキャラクターを活用している。既定の学習計画にとらわれず，生徒のその時々々の興味関心を大切に単位目標や活動内容を柔軟に変えていくことで，生徒が主体的，創造的，協同的に活動を続けることができた。この実践で生徒が作成した「とんがりやどかりちゃん」は，自分たちが作った学校オリジナルキャラクターとして児童生徒の意識に浸透してきている。

はじめに

茨城大学教育学部附属特別支援学校では，昨年度から「感じる・考える・伝え合う 授業づくり」というテーマで授業づくりの実践研究に取り組んでいる。総合的な学習の時間では，学校や生徒の

*茨城大学教育学部附属特別支援学校 **茨城大学教育学部

実態に応じて教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習ができる³⁾。その実践を通して研究テーマに迫りたいと考え、昨年度の高等部では研究対象の授業を総合的な学習の時間とした。

昨年度の高等部の在籍生徒数は、22名である。内9名が小学部から本校に在籍する生徒、8名が中学部から、5名が高等部から本校に入学した生徒である。また、8名の生徒が自閉症及び自閉的傾向を併せ有する。さらに、てんかんや肢体不自由を併せ有する生徒も3名在籍する。

全体での指示を聞いて活動する生徒、教師とのかかわりをとおして活動する生徒など、実態は様々である。素直で明るい生徒が多いが、指示を待っていることが多く、自分から問題を発見して解決していこうとする気持ちを育てることが課題である。

総合的な学習の時間では、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てることが目標の一つである。また、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとすることから、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たす。体験的な学習の横断的・総合的な学習、探究的な活動は、子どもたちの思考力・判断力・表現力等をはぐくむものである⁴⁾。このような総合的な学習の時間のねらいに沿って、「自分の学校について知ろう」「地域について調べよう」という単元を設定し、順に学習を進める中で、生徒から自然発生的に「本校のオリジナルキャラクターを作ろう」という声があがった。

本稿で、キャラクター作成の経緯とキャラクターの活用実績を報告する。

総合的な学習の時間の単元について

総合的な学習の時間での授業づくりを行うにあたり、高等学校学習指導要領解説²⁾や「今求められる力を高める総合的な学習の展開（高等学校編）」⁵⁾、『障害児教育の「総合的な学習の時間」』⁶⁾、『特別支援教育の「総合的な学習の時間」－実践撰集－』⁷⁾等の読み合い、他の学校の総合的な学習の時間の実践資料の収集、他の教科との違いの整理等を行い、主旨の共通理解を図った。

年度初めに確認した総合的な学習の時間の単元「自分の学校について知ろう」「地域について調べよう」の目標は、「自分が生活している学校や地域について調べたり情報を集めたりして、主体的に生活する気持ちを育てる。」であった。

この目標に沿って、生徒が学校周辺を探索して案内マップを作成したり、学校概要を調べて学校新聞を作ったりする活動（図1）を設定した。その後、生徒の興味関心を大切にしながら、内容をその都度検討し、調べる対象を広げ、自分の居住地のゆるキャラについて調べて発表する活動（図2）を行った。

このような学習を進めるうちに、生徒は、学校の特徴についての理解が深まり、また市町村の多くに特徴を表現したキャラクターがあることを知った。生徒から「学校の特徴を表したキャラクターを作成しよう。」という声があがったのは必然であった。

その声を受けて以後の学習計画を再考し、以下のような単元（表1）と目標を設定した。

単元名「ゆるキャラグランプリ」

単元目標

- ・学校の特徴をとらえたキャラクターを自分たちで考える活動を通して、様々なアイデアを出しそれを実現する意欲と態度を育てる。
- ・キャラクターを考えて活用する活動を通して、生徒が学校に親しみを持ち、学校を取り巻く方々と話したりかかわったりすることができる。
- ・バザーで販売する中学部高等部の作業学習製品等にキャラクターをはることで、学校をアピールできるようにする。



図1 学校新聞づくり



図2 ゆるキャラの調べ学習

表1 単元名及び活動内容

期日	単元名	活動内容
5月16, 23, 30日	自分の学校について知ろう	学校新聞づくり①②③
6月27日	地域について調べよう	居住地のゆるキャラを知ろう
7月4日		居住地の特色を知ろう
7月11日	ゆるキャラグランプリ	ゆるキャラを考えよう① 学校の特色について知ろう
7月18日		ゆるキャラを考えよう② ゆるキャラをデザインしよう
9月5日		ゆるキャラを考えよう③ ゆるキャラグランプリ投票をしよう

キャラクターの作成について

(1) キャラクター決定までの経緯

高等部の生徒だけでなく中学部の生徒にも広報して、学校の特徴を表現したキャラクターを公

募した。次時に、それらのイラストのコピーを提示し、生徒が好きなものを選び着色した(図3, 図4, 図5, 図6)。それぞれの生徒のイメージが徐々にふくらみ具体化していった。自分たちでキャラクターを決める企画を考えたことで、多くの生徒が主体的に取り組んだ。

真剣に学校の特徴を考えて、考えつくすべての情報を盛り込み丁寧にイラストを描いた(図3)生徒の姿や、普段は絵を描くことの少ない生徒がアイデアを出して楽しそうに描いたイラスト(図4)は、とても印象的だった。

	
<p>図3 トングリーバススタイムーン 高等部2年 男子 生徒の学校イメージが多く盛り込まれている。施設や備品、活動内容や給食についてイラストで描かれている。学校の特徴を真剣に考え表現しようとする姿が見られた。</p>	<p>図4 スマイルさん 高等部1年 男子 シンボリック的存在であるとんがり館と、スクールバスをかわいらしく表現している。絵を描くことの少ない生徒が、自分からアイデアを出して描いた貴重な作品である。</p>
	
<p>図5 さくらの団子 高等部1年 女子 グラウンドにある時計塔からイメージをふくらませ、団子のイラストになった。</p>	<p>図6 ランニングバス 高等部2年 男子 スクールバスと、毎日バスに乗っている友達をユニークな発想と色彩で表現している。</p>

次に、生徒が考えたキャラクターを一覧にし掲示して、小学部児童、中学部高等部生徒、職員が投票をした（図7、図8）。これも生徒の企画である。生徒が、一覧表を持って小学部、中学部、高等部、職員室を回って、投票を呼びかけた。

最多得票は、中学部2年女子生徒が考えた「とんがりやどかりちゃん」だった（図9）。

「ゆるキャラグランプリ」受賞を祝して、全校児童生徒の前で表彰を行った。最多得票のキャラクターの仕上げとデジタルデータ化をプロに依頼した（図10）。

グランプリを受賞した生徒を含め、多くの生徒がイラストに取り入れたのが、本校のシンボリック存在であるとんがり館（図11）である。とんがり館は、学校施設としては珍しく三角形の屋根と時計を持つ印象に残る建物である。宿泊を伴う活動ができる生活訓練棟であり、通常は児童生徒が、課題学習、音楽、自立活動等の学習活動を行っている。



図7 ゆるキャラグランプリ掲示



図8 投票の様子



図9 「とんがりやどかりちゃん」原画



図10 「とんがりやどかりちゃん」仕上がり



図 11 とんがり館全景

(2) キャラクター「とんがりやどかりちゃん (図 10)」の特徴及び趣旨

①特徴 (原画作成の生徒のイメージ)

- ・やどかりの仲間ととんがり館そっくりの家を持っている。
- ・落ち着きがない性格である。
- ・かわいい大きなはさみを持っている。
- ・「とんがり」と「やどかり」の名前が韻をふんでいてかわいい。

②趣旨 (教員考案)

- ・学校の特徴的な建物であり、小学部生から高等部生までなじみのある「とんがり館」をモチーフとしている。
- ・やどかりの動きが、本校の児童生徒のイメージに合っている。
- ・やどかりは、住む家を変えて成長していくことから、とんがり館を構えた学校から巣立って活躍する社会人になってほしいという願いに合っている。
- ・「とんがり館 (本校)」を安全基地として安心して外に出て活躍してほしい。

キャラクターの活用について

(1) 生徒の活動において

- ・小学部の卒業記念品として、電熱ペンでキャラクターを描いた掲示を作った。
- ・中学部生徒が本校のキャラクターの製品を作りたいと希望したのを受けて、作業学習製品としてキャラクターグッズを作製し、12月に地域に開放した本校のバザーで販売した (図 12)。
- ・中学部の卒業記念品は、自分たちで何を作るか考えた結果、キャラクターが縫いつけられた電子黒板カバーを作製した (図 13)。
- ・高等部の全ての作業製品に、キャラクターのシールを貼った。

(2) 学校運営において

- ・校外内のパンフレット等で活用している。
- ・ホームページのトップページで紹介し、保護者や地域の方々、OB・OG 職員に周知した。
- ・「とんがりやどかりちゃん」生誕と地域のロータリークラブ 40 周年を記念し、キャラクターのピンバッジを 1,000 個作製した。公開講座参加者や地域の方に配付する。
- ・運動会の職員ユニホームとして、キャラクターが入った T シャツを作成した。
- ・今年度から本校主催の研究研修のつどいの総称を「やどかりくらぶ」とした。



図 12 バザーでのキャラクターグッズ販売



図 13 中学部平成 25 年度卒業生記念品

まとめと今後の課題

この実践を通して、生徒は自分たちで考えアイデアを出し「キャラクターの公募、候補作品の作成、投開票、決定」の企画から運営までの活動を行うことができた。生徒が様々なアイデアを出し、それを実現する体験ができたことで、生徒が達成感を味わうことができた。また、学校の特徴をとらえたキャラクターを考えて活用する活動を通して、生徒が学校に親しみを持ち、学校に関係する方々と話したりかかわったりすることができた。「とんがりやどかりちゃん」は、自分たちが作った学校オリジナルキャラクターとして児童生徒の意識に浸透してきており、様々な場面で児童生徒が自分から活用しようとする場面が増えている。これからも児童生徒に愛されるキャラクターとして大切に活用できるように支援をしていきたい。

今回の実践で心がけたことは、既定の計画にとらわれず、生徒のその時々々の興味関心を大切にしながら、単元目標や活動内容を柔軟に変えていくことであった。生徒のアイデアを大切にしながら、それを実現するような活動変更や支援を行なうことで、キャラクターの作成という活動に主体的、創造的、協同的に取り組むことができたと考えられる。今回の取り組みは、自ら課題を見付け、自ら学び、

自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育み、思考力・判断力・表現力等をはぐくむため1つの実践例となったのではないかと考える。

しかし、活動の評価が課題として残った。今回の実践では活動内容の充実に重点が置かれており、評価についてはその方法と内容において十分とは言えない面が見られた。生徒の活動において適切な評価をするためには、単元計画作成時に指導と評価の一体化の視点から周到な計画をする必要がある。また評価基準を設定する際には、学校で定めた評価の観点を基にして、単元の目標や内容、育てようとする資質や能力及び態度を踏まえることが必要である⁸⁾。生徒のその時々々の興味関心を大切にして単元目標や活動内容を柔軟に変えていくのと同時に、その活動を適切に評価する方法や内容についても考えていく必要があるだろう。

この実践を通して、学校、地域を調べる活動から本校の特徴やキャラクターに意識が向いた。この実践の後には、その意識が広がり、日本や世界の文化について主体的に体験したり調べたりする学習につながっていった⁹⁾。

学校運営的な視点では、キャラクターを使った校内外の資料やグッズの配付を通して、学校を地域にアピールできた。今後もキャラクターを使って本校をPRすることで、特別支援教育の理解啓発につながることを期待する。

注

- 1) 文部科学省. 2009. 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領』.
- 2) 文部科学省. 2009. 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (高等部)』.
- 3) 文部科学省. 2009. 『高等学校学習指導要領』.
- 4) 文部科学省. 2009. 『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』.
- 5) 文部科学省. 2013. 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 (高等学校編)』.
- 6) 清水貞夫監修・三浦光哉編著. 2001. 『障害児教育の「総合的な学習の時間」～生活単元学習から「総合的な学習の時間」への転換～』(田研出版).
- 7) 三浦光哉・清水貞夫編著. 2003. 『特別支援教育の「総合的な学習の時間」実践撰集一』(田研出版).
- 8) 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター. 2012. 『総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校】』.
- 9) 渡邊鮎美・廣木聡・椎名幸由紀・東條吉邦. 2014. 『高等部総合的な学習の時間の取り組み②ー外国新発見! 日本再発見!ー』(茨城大学教育学部附属教育実践総合センター).